

次の東京下町の地震にかかわるアスペリリティ群と境界面リベット仮説

Asperity groups of the next Tokyo-Shitamachi earthquake and ribbet theory

藤原 實^{1*}

minoru fujiwara^{1*}

¹藤原 實

¹fujiwara minoru

7. 次の東京下町地震にかかわるアスペリリティ群とプレート境界面リベット型アスペリリティ仮説

1. 茨城県沖 pac-陸側プレート境界面アスペリリティ
2. 千葉県東方沖 pac-陸側プレート境界面亜アスペリリティ
3. pac-phs プレート境界面アスペリリティ

太平洋プレートは南関東では馬の背のように上に凸となっており、フィリピン海プレートの下面と接している。

4. 犬吠崎以南の phs プレートと陸側プレート境界面アスペリリティ
5. 右横ずれ断層ゾーンのアスペリリティ

6. 結論 pac-phs プレート境界面では南北に細長いアスペリリティゾーンがあり、活発に活動している。これに対して関東平野の基盤岩地溝帯とほぼ一致した右横ずれ断層帯が存在しこれら2つのゾーンが交差する

があり、これと右横ずれゾーンが東京下町で交差している。

7. プレート境界面リベット型アスペリリティ仮説

互いに押し合っているプレート境界面では高圧力下の変成作用により玄武岩質または砂岩質のリベット状のアスペリリティが生じる。

宮城県沖～茨城県沖は砂岩質、その他は玄武岩質と推定する。